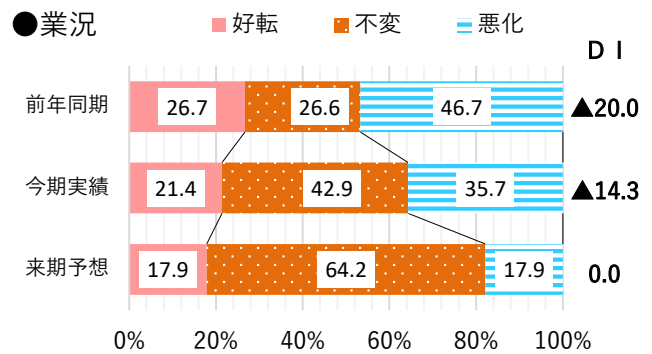


小 売 業

業況、売上、採算

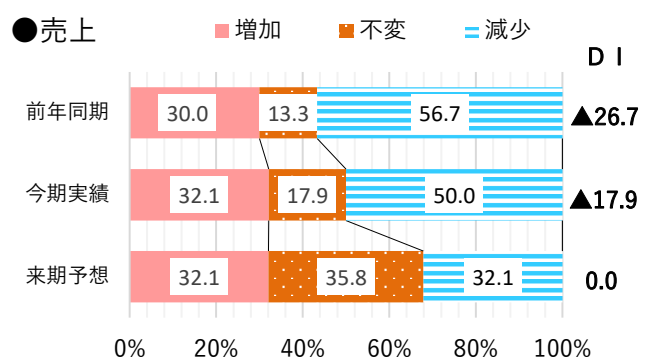
今期(2021.10~12)の業況判断DIは▲14.3で、前年同期(2020.10~12)と比べ5.7ポイント上昇しました。

来期(2022.1~3)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



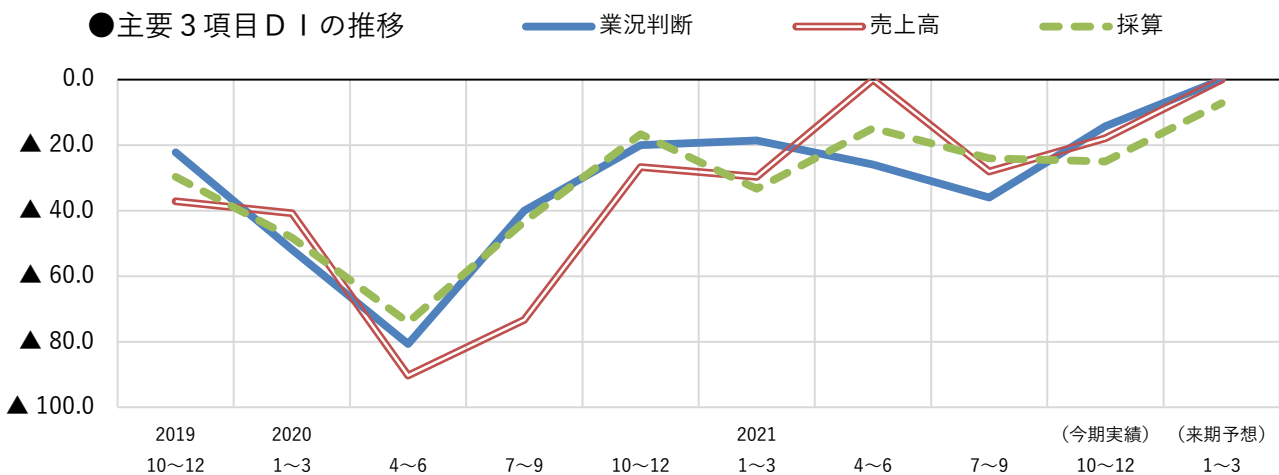
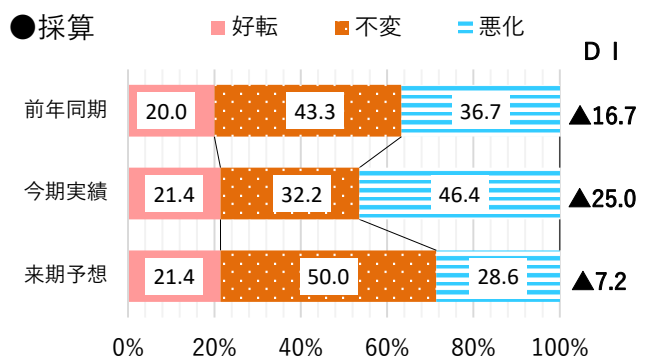
今期の売上高DIは▲17.9で、前年同期と比べ8.8ポイント上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲25.0で、前年同期と比べ8.3ポイント低下しました。

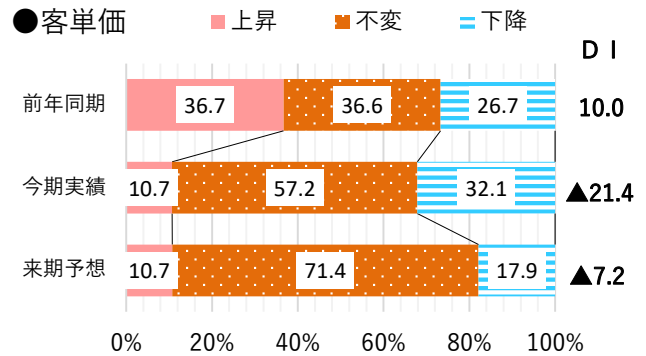
来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



客単価、客数

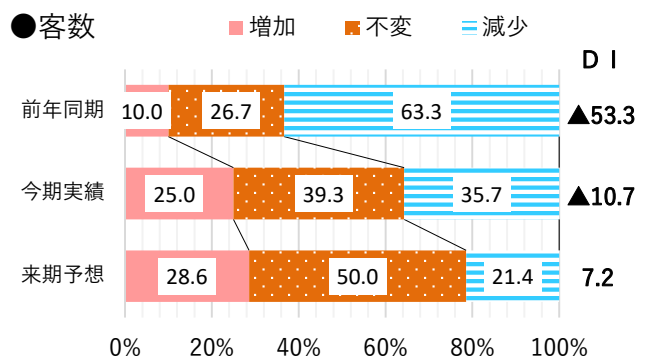
今期の客単価DIは▲21.4で、前年同期と比べ31.4ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



今期の客数DIは▲10.7で、前年同期と比べ42.6ポイントと大幅に上昇しました。

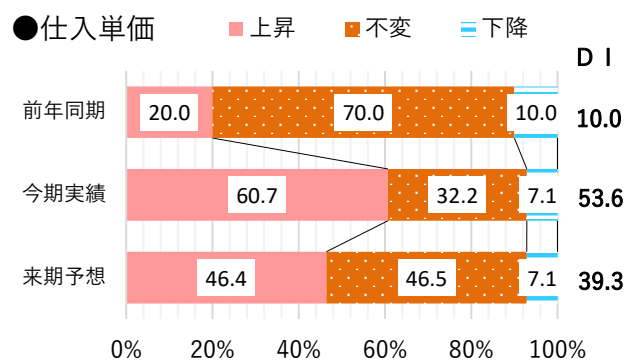
来期は、客数がプラスに転じると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

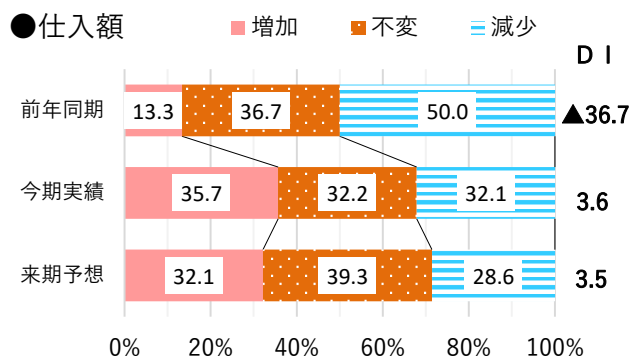
今期の仕入単価DIは53.6で、前年同期と比べ43.6ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



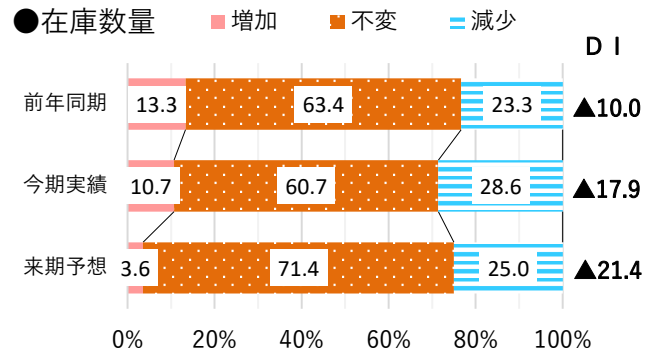
今期の仕入額DIは3.6で、前年同期と比べ40.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、仕入額のほぼ横ばいを予想しています。



今期の在庫数量DIは▲17.9で、前年同期と比べ7.9ポイント低下しました。

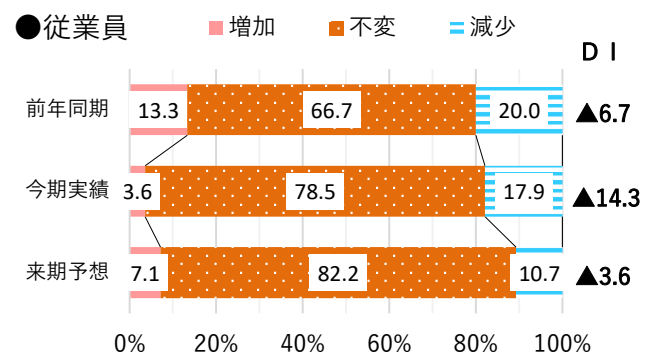
来期は、在庫数量の減少傾向が続くと予想しています。



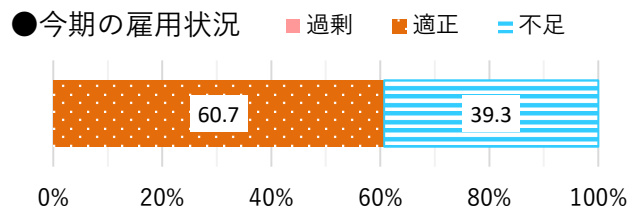
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲14.3で、前年同期と比べ7.6ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は60.7%、不足していると回答した企業の割合は39.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の53.5%を占めています。

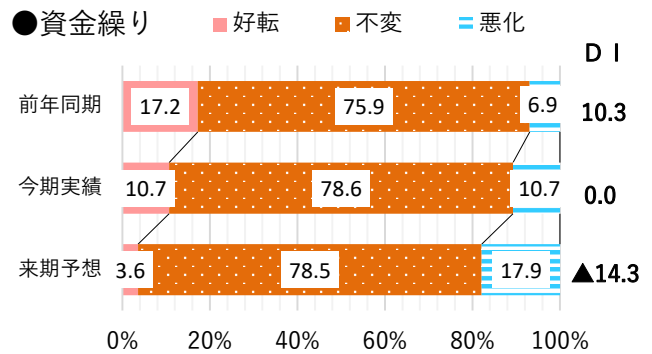
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	15
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

資金繰り、設備投資

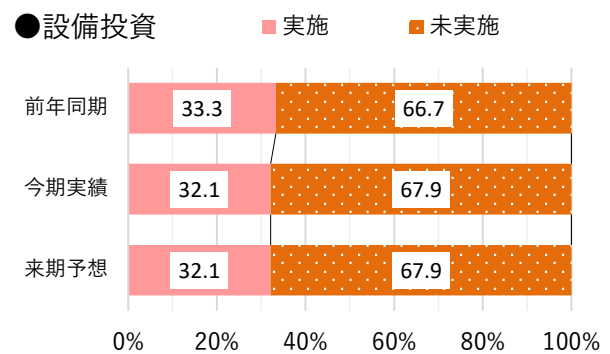
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ10.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りが悪化に転じると予想しています。



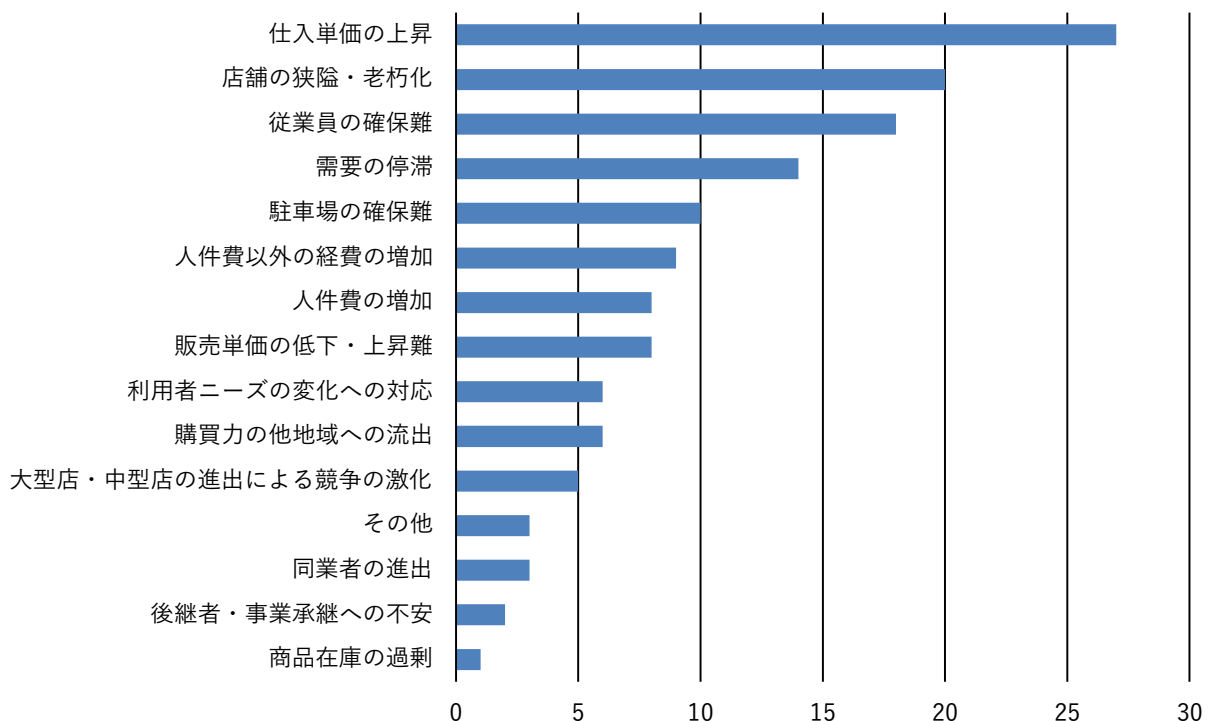
設備投資を実施した企業の割合は32.1%で、前年同期と比べ1.2%低下しました。投資内容は1位が「店舗」、2位が「販売設備」、3位が「車両運搬具」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は32.1%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「店舗の狭隘・老朽化」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 緊急事態宣言が明けてからは、飲食業、観光関連施設を中心に売上が回復した。店頭売上とネット通販の売上はともに堅調に推移した。(食料品小売)
- 原材料費、光熱費、包装資材価格等あらゆるものの値上がりや、コロナ禍による不況から回復する間もなく最低賃金が引き上げられたことで、業況の回復が遅れている。(菓子製造小売)
- 客数が減少した。仕入品の未着が多数発生しているが、プレミアム商品券の利用が多く、売上はある程度確保できた。広告費は倍増した。(衣服・身の回り品小売)
- 内装、外装のリフォームが好調で、業績が伸びた。(家具・建具・畳小売)
- 半導体と部品の不足により、車両生産台数の減少や新車の納車に時間がかかり、売上が減少した。下取り車両が未入庫のため、中古車が品不足の状態にある。(自動車小売)
- 去年はコロナ禍のため、売上が伸び悩んだが、今期は売上と利益がともに増加した。(自動車小売)
- 新型コロナウイルスの影響で、車での外出が少なくなり、業況は悪化した。(自動車小売)
- コロナ禍による減収から幾分回復した。人や観光も動き始めており、売上と客数が増加した。(大型店)
- バスの減便、観光客の減少で客数が回復していない。(大型店)
- 原油価格の高止まりで、燃料の市場価格が上昇した。商売に逆風が吹いている。(燃料小売)
- 取引先は新型コロナウイルスの影響から多少回復しているようだが、自社は忘年会や新年会に係る売上が全くなく、苦しい状況が続いている。(コンビニ)
- 売上と利用客数の減少、人手不足、最低賃金の上昇で採算が悪化した。(コンビニ)
- 少しずつ客足が戻っているが、まだまだ業況は厳しい。(ドラッグストア)
- コロナ禍の影響が小さくなり、業況は好転した。(花・植木小売)

[来期の業況について]

- 新型コロナウイルス変異株の影響で、先行きを見通せない。(食料品小売)
- あらゆるものが値上げされているため、自社商品の値上げも現実味を帯びてきている。(菓子製造小売)
- 仕入先を分散させ、商品未着のリスクを減らしたい。(衣服・身の回り品小売)
- 上昇した原材料価格の転嫁に苦労すると思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 半導体や自動車部品の不足は解決しないとわれ、業況の好転は期待できない。(自動車小売)
- 売上、利益は増加を見込むが、固定費と販売費の増加が懸念される。(自動車小売)
- 国内外の観光客数が回復し、店舗に付帯する施設の工事が終了すれば好転するだろう。(大型店)
- 回復傾向が強まると予想する。客数増加と客単価上昇を見込む。(大型店)
- 新型コロナウイルス第6波や、変異株の拡大があれば、さっぽろ雪まつりや小樽雪あかりの路などのイベントは開催できないと思う。(コンビニ)
- 新型コロナウイルス変異株が流行するのではないかと、不安を感じている。(コンビニ)
- 新型コロナウイルス第6波の状況によっては、業況の悪化が続くと思われる。(ドラッグストア)
- 資金繰りは厳しくなると思われる。(花・植木小売)